

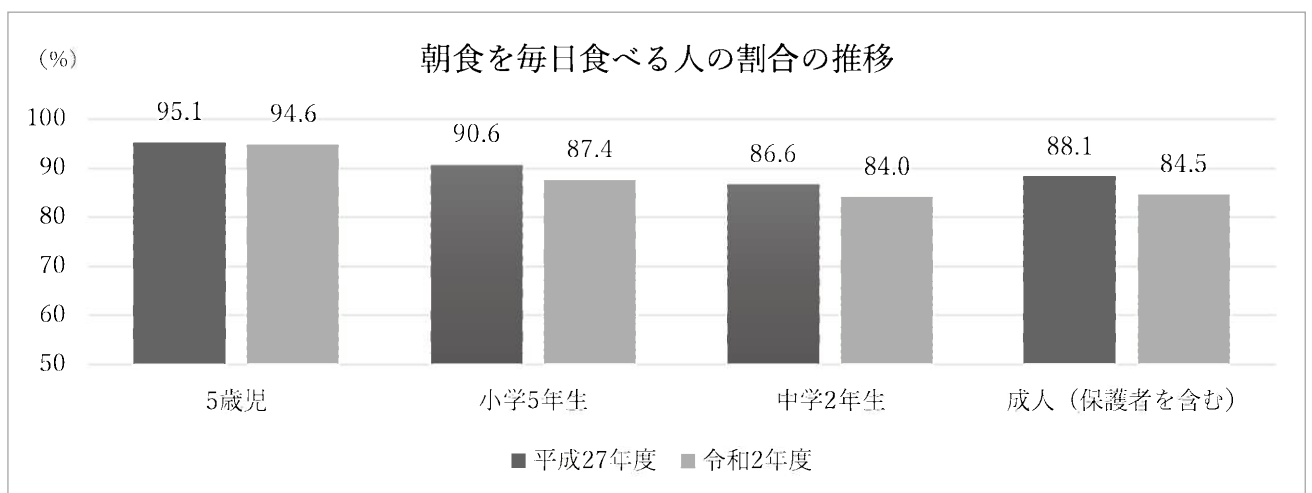
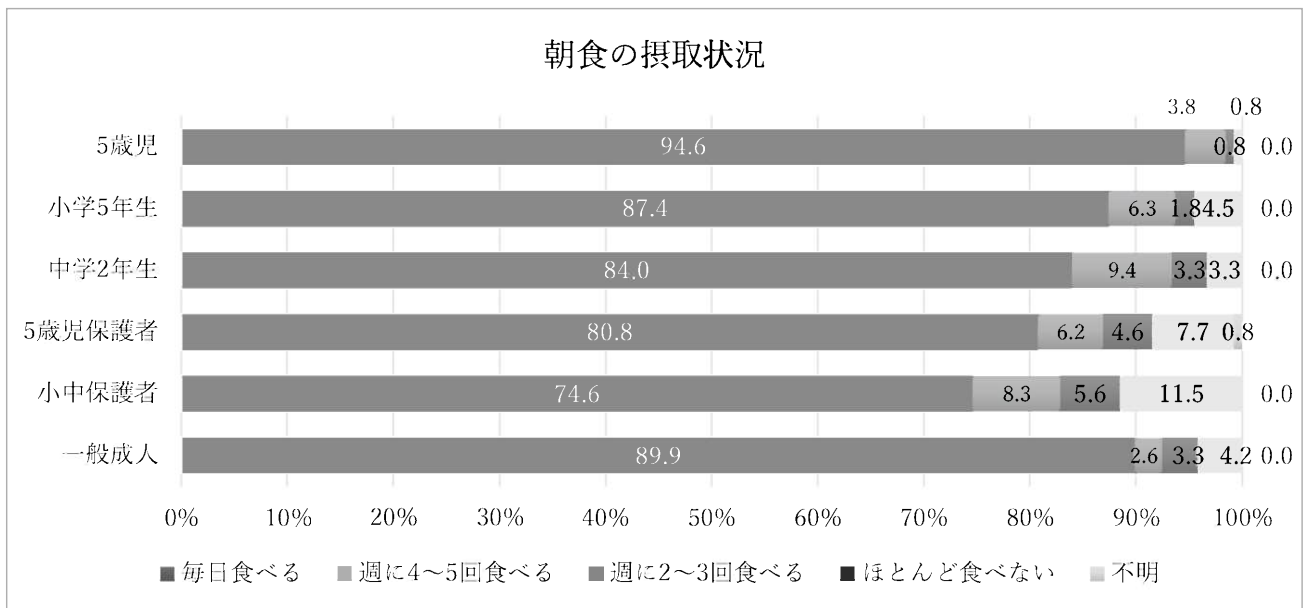
7. 大河原町における食をめぐる現状（数値目標に対する達成状況と評価）

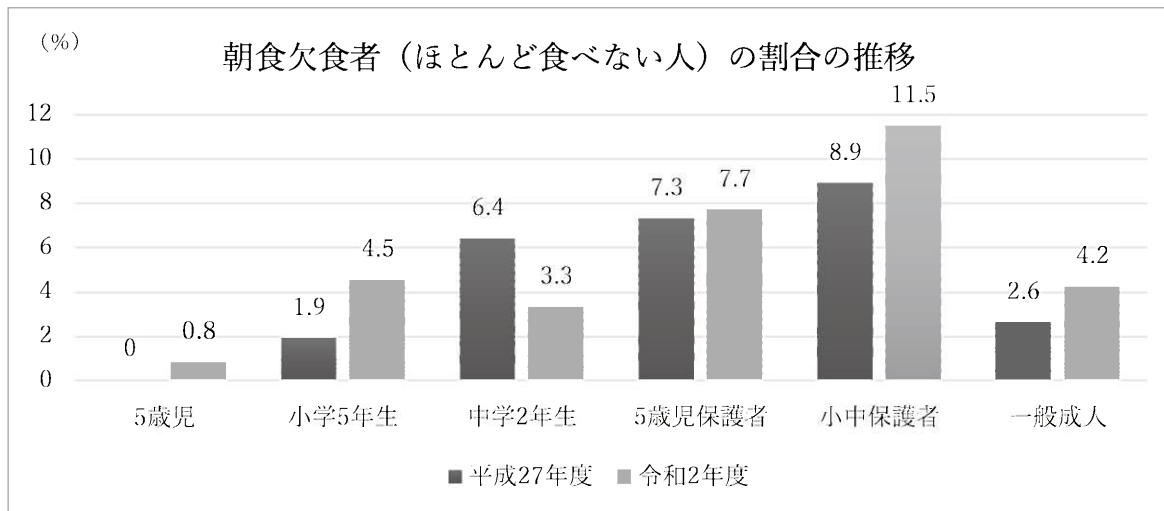
1. おいしく食べよう朝ごはん

指標1 朝食を毎日食べる人の割合が増える

令和2年度に実施した食生活アンケート調査（別紙参照）の結果から、朝食を「毎日食べる」と回答した人の割合は、5歳児が94.6%と最も高く、小学5年生が87.4%、中学2年生が84.0%と学年が進むにつれて低くなり、欠食する人が増える傾向が今回も見られました。成人では、一般成人で89.9%、小中保護者で74.6%、5歳児保護者では80.8%となっており、小中保護者が最も低くなっています。

朝食を毎日食べる人の割合は、すべての年代で低下している状況となっています。





朝食をほとんど食べないと回答した人の割合は中学 2 年生以外で増加しており、特に小学 5 年生、小中保護者の増加率が大きくなっています。

朝食を欠食する理由では、子どもでは「食欲がない」が最も多く、成人では 5 歳児保護者、小中保護者が「時間がない」、一般成人では「食べる習慣がない」が多い状況です。子どもの「食欲がない」、保護者の「時間がない」は全ての年代で増加していました。

朝食を欠食する理由

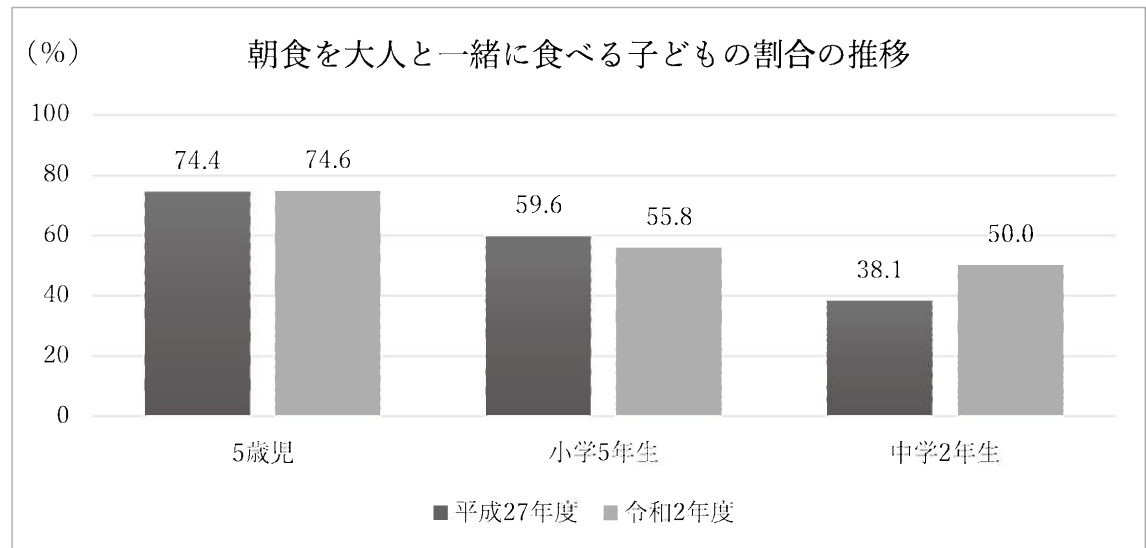
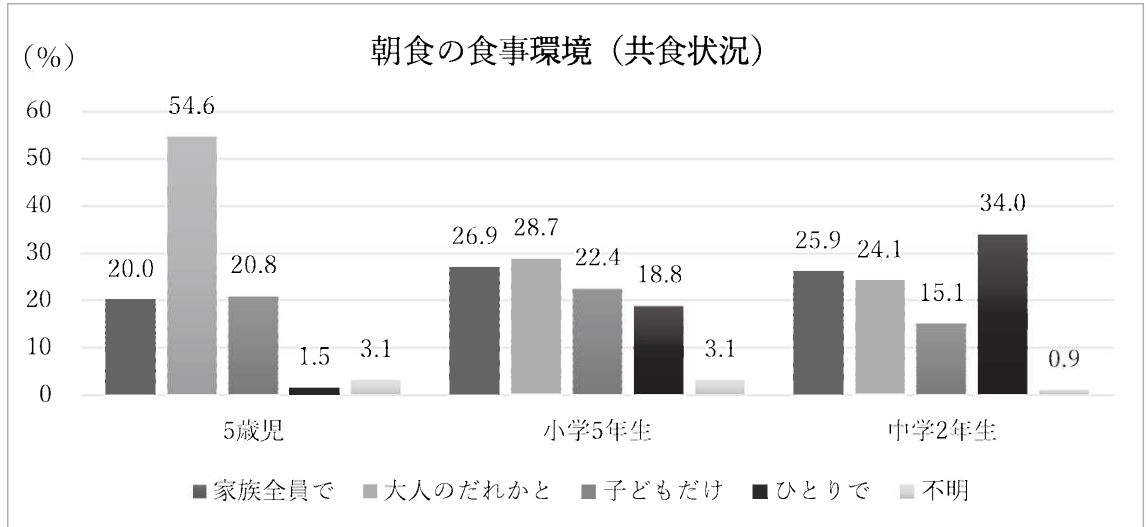
項目	1 位	2 位	3 位
5 歳児	食欲がない (57.1%)	時間がない (14.3%)	不明 (28.6%)
小学 5 年生	食欲がない (46.4%)	時間がない (28.6%)	その他 (10.7%)
中学 2 年生	食欲がない (50.0%)	時間がない (35.3%)	用意がされていないから 食べる習慣がない (各 5.9%)
5 歳児保護者	時間がない (54.2%)	食欲がない (20.8%)	食べる習慣がない (12.5%)
小中保護者	時間がない (43%)	食欲がない (23.3%)	食べる習慣がない (17.4%)
一般成人	食べる習慣がない (25.7%)	時間がない (27.1%)	食欲がない (27.1%)

指標		ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
朝食を毎日食べる人の割合が増える	5 歳児	95.1%	94.6%	98.6%	D
	小学 5 年生	90.6%	87.6%	93.5%	D
	中学 2 年生	86.6%	84.0%	92.6%	D
	成人 (保護者含む)	88.1%	84.5%	94.6%	D

指標2 朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える

朝食を「ひとりで食べる」子どもは、中学2年生で7.1ポイント、5歳児では2.2ポイント低下している状況です。しかし、小学5年生では18.8%と7.1ポイント増加しています。

朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合は、中学2年生で50.0%と11.9ポイントも高くなり、目標を達成しています。

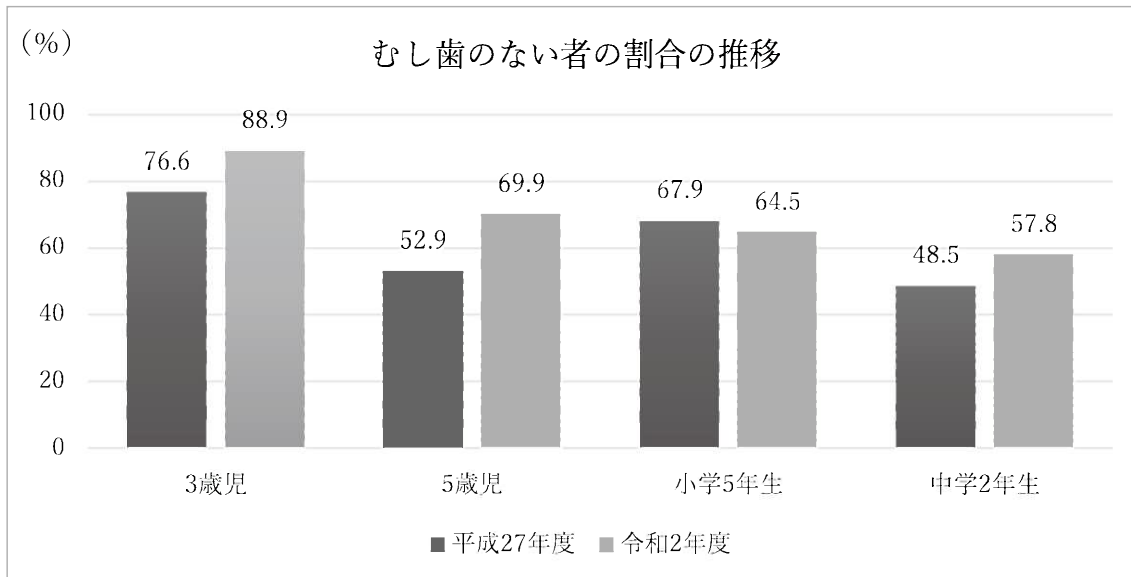


指標		ベースライン（H27）	現状（R2）	目標値	評価
朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える	5歳児	74.4%	74.6%	86.9%	B
	小学5年生	59.6%	55.8%	60.2%	D
	中学2年生	38.1%	50.0%	43.1%	A

2.奥歯でよく噛み味わいながら

指標3 むし歯のない子どもの割合が増える

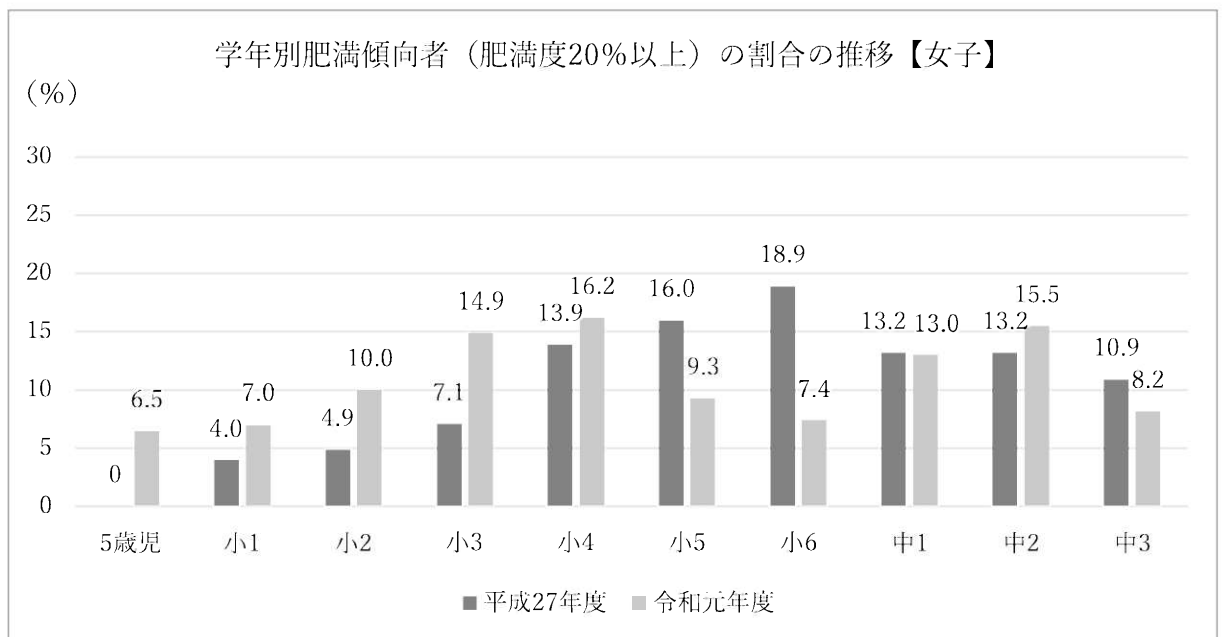
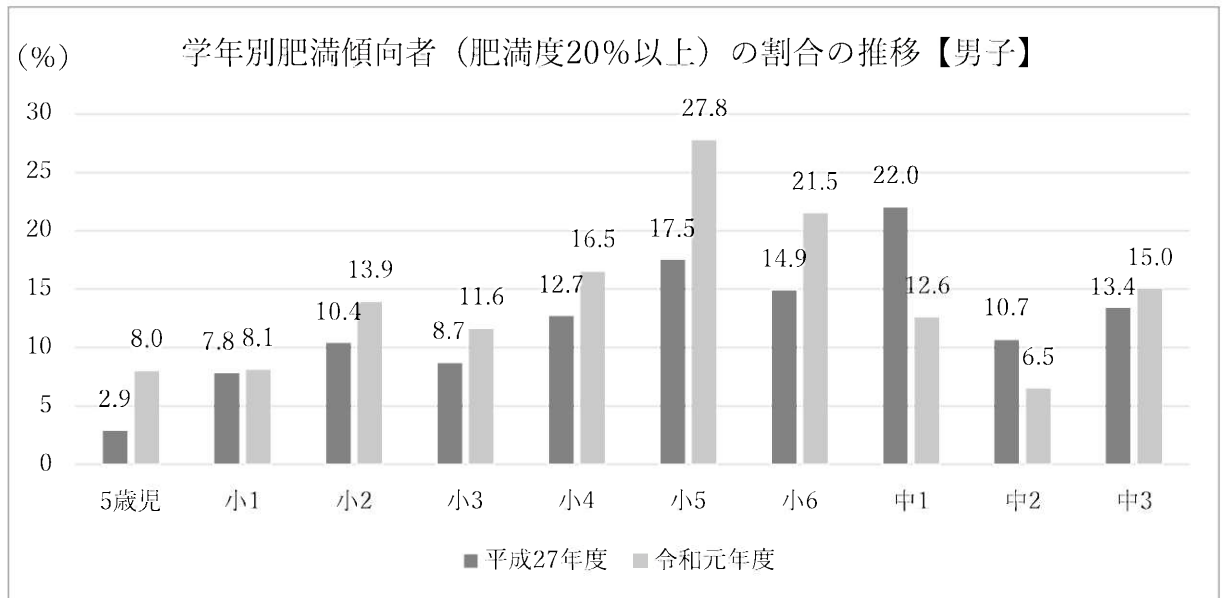
むし歯のない子どもの割合は、3歳児 88.9%、5歳児 69.9%、中学2年生 57.8%で目標値に達成しましたが、小学5年生では 64.5%であり平成27年度より低下している結果となりました。



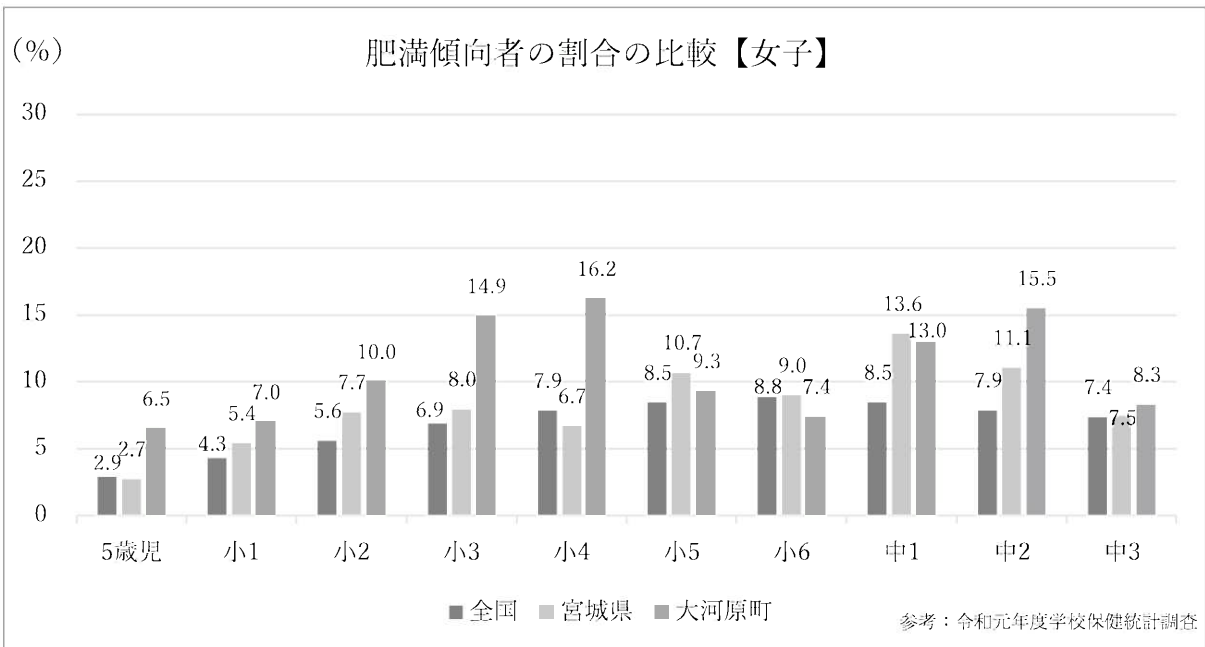
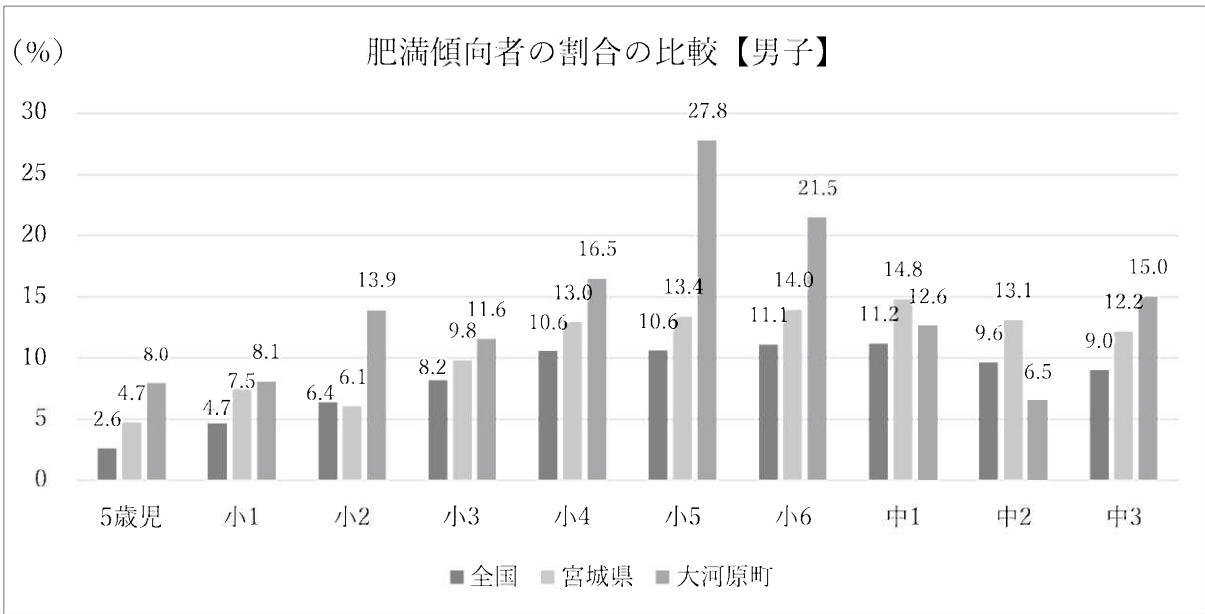
指標		ベースライン (H27)	現状 (R1)	目標値	評価
むし歯のない子どもの割合が増える	3歳児	76.6%	88.9%	80.0%	A
	5歳児	52.9%	69.9%	55.9%	A
	小学5年生	67.9%	64.5%	70.0%	D
	中学2年生	48.5%	57.8%	48.5%	A

指標4 子どもの肥満傾向の割合が減る（軽度肥満・肥満度20%以上）

子どもの肥満の割合は、小学生男子は全学年で増加しており、5、6年生は20%を超えています。特に5年生男子の増加率は大きく27.8%でした。追跡してみると、平成27年度調査時（1年生）の肥満児の出現率が7.8%に対し、令和元年度は20.0ポイント増加しており、増加率が大きいことが分かります。小学生女子は5、6年生で改善が見られ、特に6年生の改善率が11.5ポイント減少しました。中学生は2年生で増加し、10%を超えています。全国、県と比較しても小学生男子は全学年で肥満児の出現率が高い状況です。幼児の肥満は男女ともに増加していました。



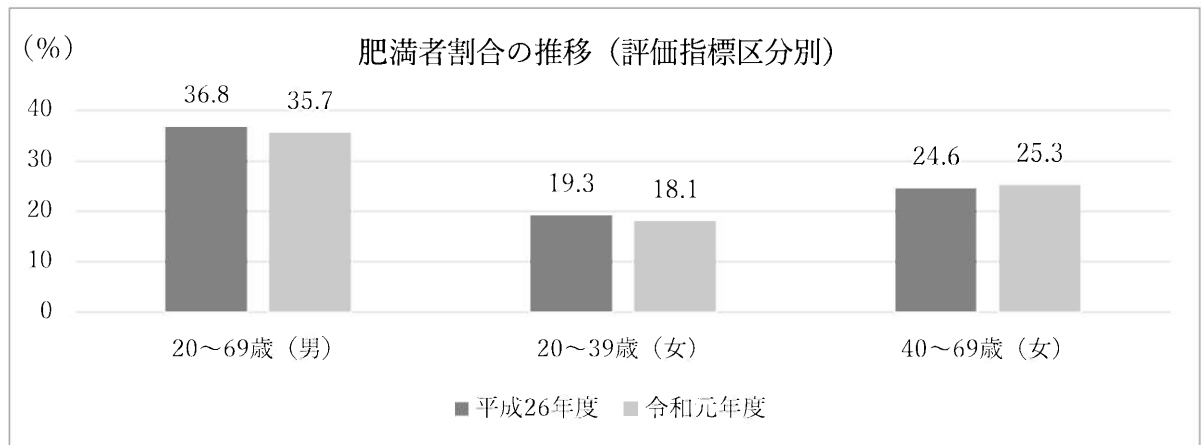
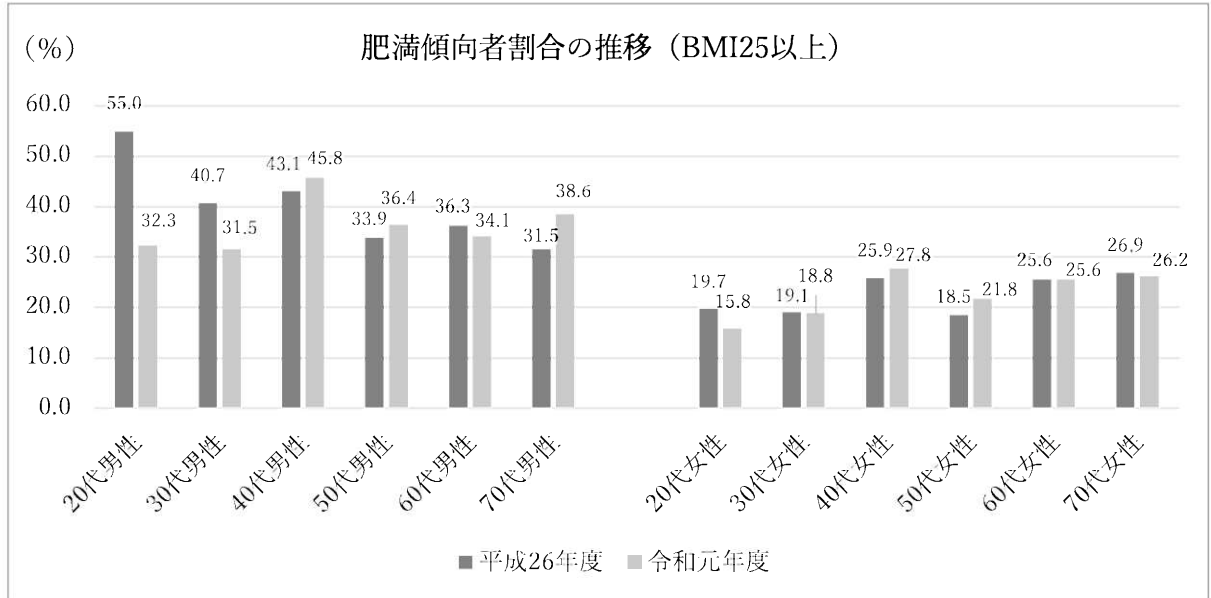
参考：身体計測結果



指標		ベースライン (H27)	現状 (R1)	目標値	評価
子どもの肥満傾向の割合が減る (軽度肥満 肥満度 20%以上)	5歳児(男)	2.9%	8.0%	0%	D
	5歳児(女)	0%	6.5%	0%	D
	小学5年生(男)	17.5%	27.8%	減少	D
	小学5年生(女)	16.0%	9.3%		A
	中学2年生(男)	10.7%	6.5%		A
	中学2年生(女)	13.2%	15.5%		D

指標 5 大人の肥満者の割合が減る（肥満：BMI25以上）

青年期健康診査、特定健康診査の結果によると、大人の肥満者の割合は20～69歳男性と20～39歳女性は目標値に達しないものの若干の改善が見られました。40～69歳女性は肥満者の割合が微増しました。また、平成27年度調査同様、どの年代も女性よりも男性の肥満者の割合が高くなっています。20代、30代男性の肥満者の割合は大きく減少したものの、40代以降になると肥満者が増加する傾向にあります。



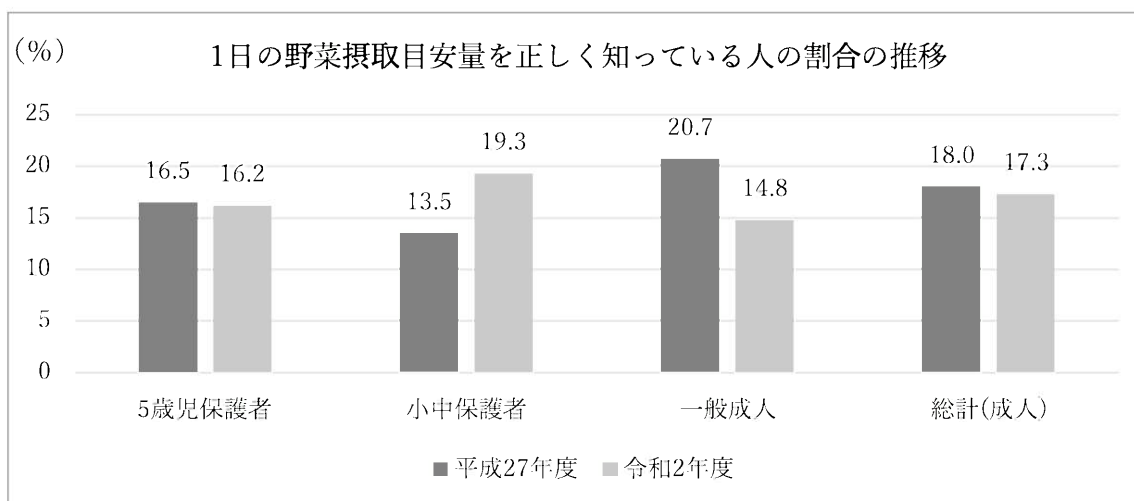
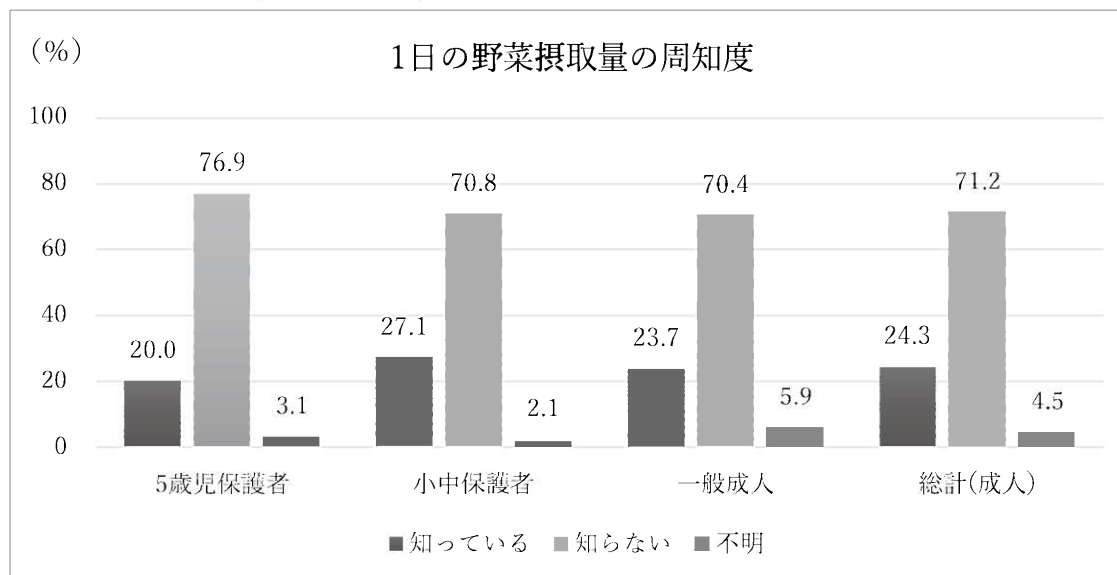
参考：特定健康診査・青年期健康診査

指標		ベースライン (H26)	現状 (R1)	目標値	評価
肥満者の 割合が減 る	20～69歳（男）	36.8%	35.7%	28.0%	B
	20～39歳（女）	19.3%	18.1%	14.0%	B
	40～69歳（女）	24.6%	25.3%	19.0%	D

3.家族で野菜のおかずをひと皿増やし

指標 6 1日の野菜の摂取目安量を知っている人の割合が増える

1日の野菜の摂取目安量を「知っている」と答えた人は、5歳児の保護者が20.0%、小中保護者が27.1%、一般成人では23.7%でした。「350g以上」と正しく回答した人は5歳児保護者で16.2%、小中保護者で19.3%、一般成人で14.8%となり、成人全体でみると17.3%と平成27年度より低下しました。

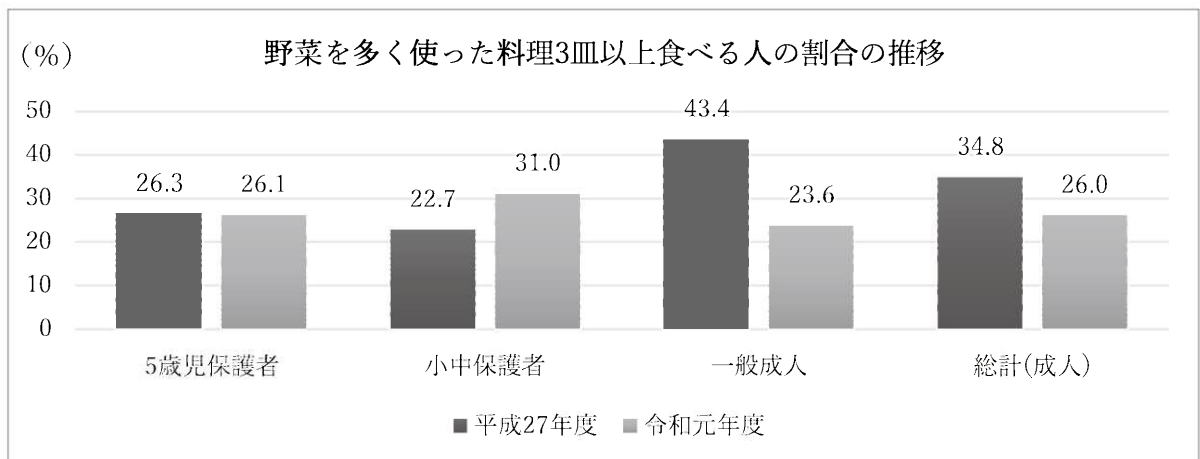
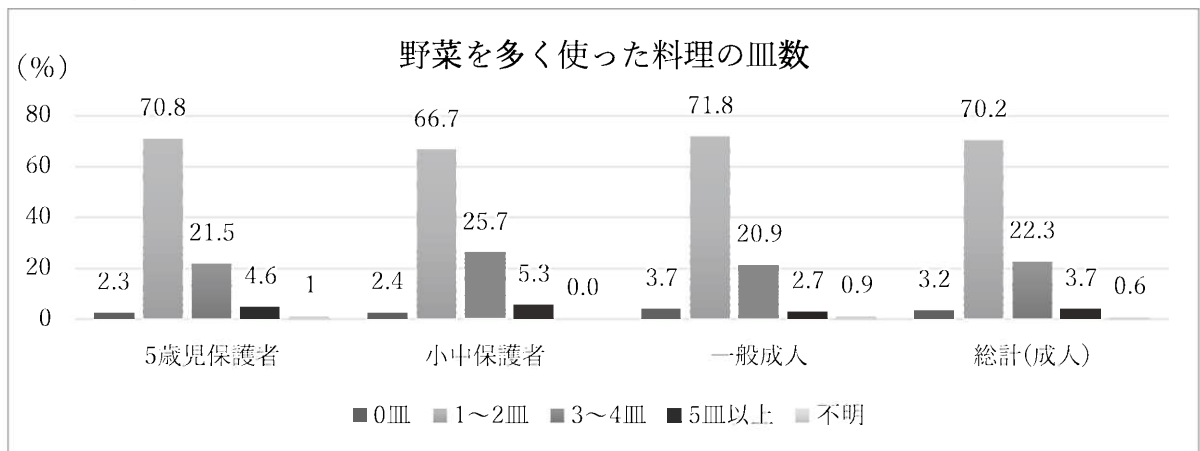


指標		ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
1日の野菜の摂取目安量を知っている人の割合が増える	成人	18.0%	17.3%	30.0%	D

指標7 1日に摂取する野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合が増える

野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合は、小中保護者では31.0%と8.3ポイント増加しましたが、一般成人では23.6%と19.8ポイントと大きく減少し、成人全体で見ると26.0%と8.8ポイント減少しました。野菜を多く使った料理を5皿以上食べることが目標ですが、平成27年度調査で6割以上の方が1～2皿と回答したことを踏まえ、まずはひと皿増やすことを目指し、指標を5皿から3皿に変更しましたが目標値には届いていない状況です。

野菜を多く使った料理の摂取状況は「1～2皿」と答えた人が全体で7割近くを占めており、増加していました。目標値である5皿以上（1日350g以上）食べている人は成人全体でみると3.7%で、前回調査の5.1%より減少しており、野菜の摂取量は減少してきていることがわかります。



指標		ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
1日に摂取する野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合が増える	成人	34.8%	26.0%	40.0%	D

4.わが家（町）の食を伝えよう

指標 8 農業体験学習に取り組む学校が増える

学校の敷地内で農業体験学習に取り組んでいる学校は、大河原小学校、大河原南小学校、金ヶ瀬小学校の 3 校です。金ヶ瀬中学校では、敷地内に隣接した田んぼで農業体験学習に取り組んでいます。

指標	ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
農業体験学習に取り組む学校が増える	4 校	4 校	5 校	C

指標9 学校給食における地場産品（果物・野菜等）の利用品目数の割合が増える

果物・野菜等の地場産物は天候に左右されるため、その年度により利用品目数が大きく変動します。県調査の活用状況割合は令和元年度で33.7%となっています。

○学校給食での地場産物活用状況調査表 （教育庁調査結果より）

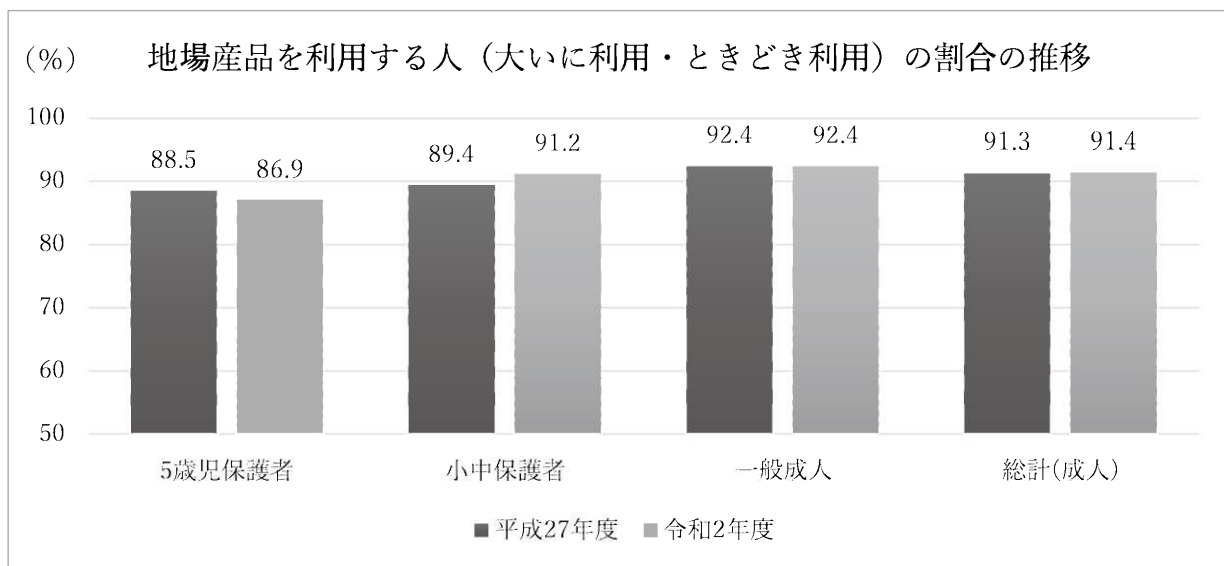
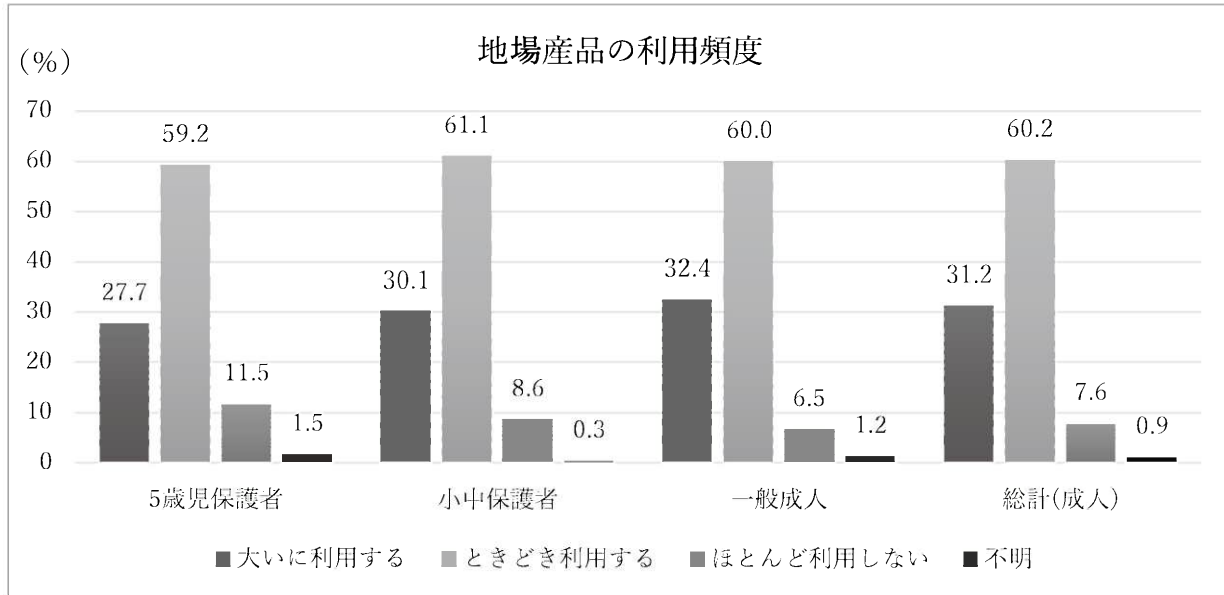
年度	総野菜等品目数	うち県内産野菜等品目数	うち大河原町産品数	県内産利用品目数の割合
平成24年度	98	8	1	8.2%
平成25年度	87	20	1	23.0%
平成26年度	94	30	8	31.9%
平成27年度	89	23	9	25.8%
平成28年度	88	29	6	33.0%
平成29年度	94	32	10	34.0%
平成30年度	91	21	7	23.1%
令和元年度	86	29	6	33.7%

※毎年、6月第3週の5日間と11月第3週の5日間における野菜（いも類含む）、豆類、果物、きのこ類の総野菜品目のうち県内産野菜等品目数の利用割合を表したものです。

指標		ベースライン (H27)	現状 (R1)	目標値	評価
学校給食における地場産品（果物・野菜等）の利用品目数の割合が増える	小・中学校	31.9%	33.7%	33.0%	A

指標 10 地場産品を利用する人の割合が増える

地場産品を大いに利用すると答えた人は一般成人が最も多く 32.4%ですが、平成 27 年度調査の 45.2%より 12.8 ポイント減少しました。しかし、地場産品を大いに利用・ときどき利用する人の割合はほぼ横ばいで、目標値に達していませんが改善傾向にあります。

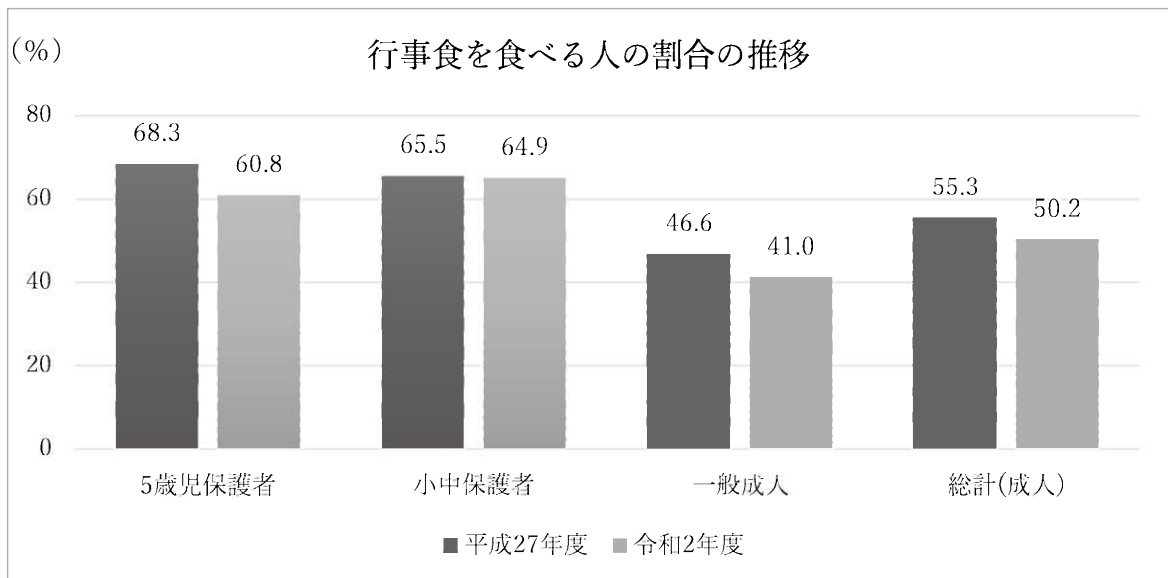
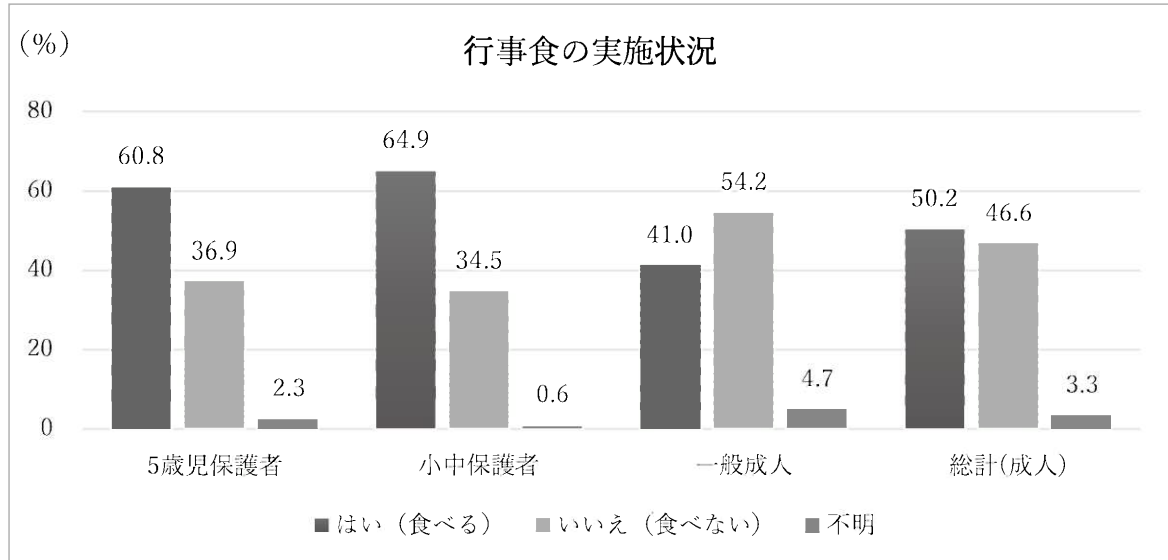


指標		ベースライン (H27)	現状 (R1)	目標値	評価
地場産品を利用する人の割合が増える	成人	91.3%	91.4%	97.3%	B

指標 1 1 行事食を食べる人の割合を維持する

行事食の実施状況はすべての年代で減少しています。平成 27 年度調査より 5 歳児保護者で 7.5 ポイント、小中保護者で 0.6 ポイント、一般成人で 5.1 ポイント減少しました。

一般成人では保護者に比べ行事食を食べている人の割合は低く、半数以上が食べていない状況です。



指標		ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
行事食を食べる人の割合を維持する	成人	55.3%	50.2%	50.7%	D

指標 1 2 食のボランティアと連携する学校が増える

平成 27 年度調査に引き続き、町内の 3 小学校すべてで、食育関係に活躍しているボランティアと連携した活動が展開されている状況です。JA 婦人部、ヘルスマイト（食生活改善推進員）と連携した食育活動が定着しています。

学校名	連携ボランティア等	取り組み内容
大河原小学校	ヘルスマイト	生活科、家庭科、総合的な学習の時間やクラブ活動等での地域食材の特徴について、その食材を使った料理、郷土料理の調理実習の支援。（令和 2 年度はコロナの影響で未実施）
大河原南小学校	JA 婦人部	サツマイモの苗植えと収穫の際に、JA 婦人部の方々を 10 名近くゲストティーチャーとして招聘。拡大した写真や図などを掲示しながら、サツマイモの育ち方や水やりの仕方など指導。また、苗の植栽や収穫では、演示したり補助に入ったりしていただいた。
金ヶ瀬小学校	ヘルスマイト	2・4 年生がさつまいもを栽培。収穫後、4 年生がヘルスマイトの指導の下、サツマイモを使って蒸しパンなど調理をする。また、金小祭の場で販売する。（令和 2 年度はコロナの影響で 4 年生のみ活動。販売は無し）

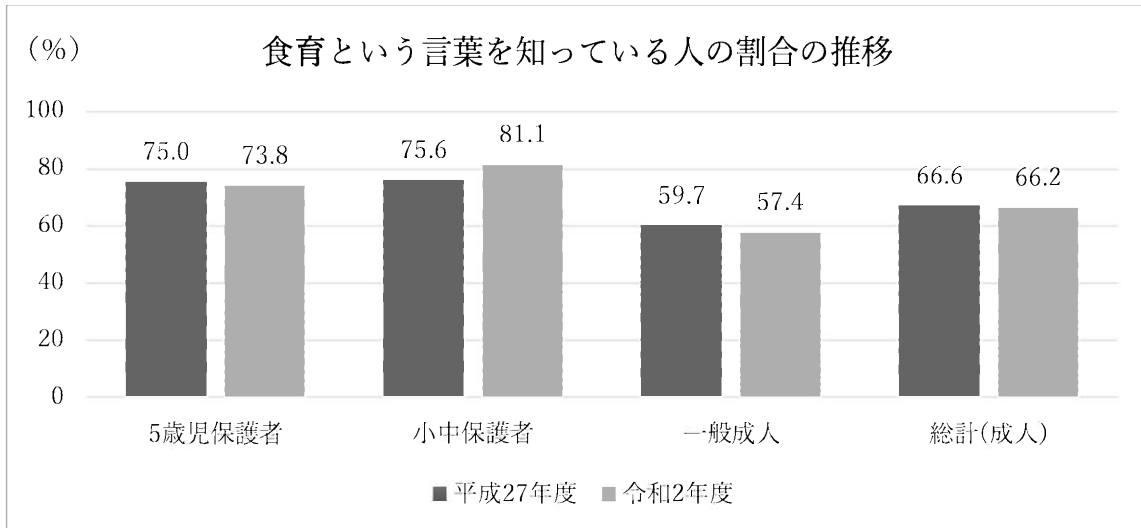
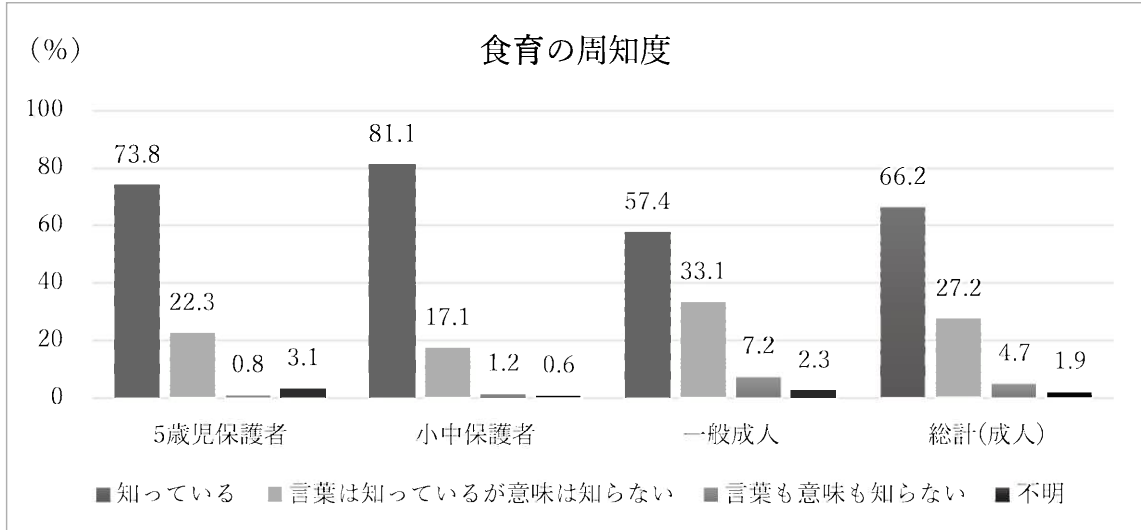
指標		ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
食のボランティアと連携する学校が増える	小・中学校	3 校	3 校	3 校	A

5.らくらく（楽楽）みんなで食育推進

指標13 食育という言葉を知っている人の割合が増える

食育という言葉を知っていると答えた人は、5歳児保護者では73.8%と低下していましたが、小中保護者では81.1%で5.5ポイント増加していました。また一般成人は低下しました。

成人全体では30%を超える人が「言葉は知っているが意味は知らない・言葉も意味もわからない」と回答している状況です。



指標		ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
食育という言葉を知っている人の割合が増える	成人	66.6%	66.2%	80.0%	D

指標 1 4 食育推進ネットワーク会議を開催する

食育推進ネットワーク会議については、第 1 期計画策定時の平成 23 年度より定期的を開催しています。この会議において、食育推進計画の進捗状況の確認とともに、各部署で実施している食育事業等について情報を共有しています。

指標	ベースライン (H27)	現状 (R2)	目標値	評価
食育推進ネットワーク会議を開催する	3 回	年 2 回	年 2 回	A

8. 課題と方向性

基本目標	指標	課題	今後の取組と方向性
おいしく食べよう 朝ごはん	朝食を毎日食べる人の割合が増える	全ての年代で朝食を毎日食べる人の割合が減少している。特に保護者世代の欠食が増加。朝食を欠食する理由として、子どもは「食欲がない」保護者世代は「時間が無い」が多くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所・幼稚園、小中学校、乳幼児健康診査等で朝食の大切さや食におけるコミュニケーションの重要性の啓発に取り組み必要がある。 ・保護者世代の生活スタイルに合った情報の提供を行う。
奥歯でよく噛み味わいながら	むし歯のない子どもの割合が増える 子どもの肥満傾向の割合が減る（軽度肥満 肥満度20%以上） 肥満者の割合が減る	<p>小学5年生以外でむし歯のない子どもの割合は増加し、目標値を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の肥満は男女ともに増加。 ・令和元年度学校保健統計より、小学生5年生男子肥満傾向児出現率は、全国、宮城県と比較しても圧倒的に多い。(全国10.63%、宮城県13.37%、大河原町27.8%) ・どの年代も女性より男性が肥満者の割合が高い。 ・男女とも40代以降で肥満者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・むし歯のない子どもの割合の維持または増加を目指すために、継続して関係機関と連携し、肥満予防の観点からも歯と口の健康の重要性を普及させていく。 ・生活習慣病予防の観点から、子どものころからの望ましい生活習慣を身につけ、将来、実践できるような取り組みが必要。 ・40代以降で増加する肥満者を減少していくために、若い世代（保護者世代）を対象に肥満対策、40代以降の生活習慣病予防対策の普及啓発が必要。

家族で野菜のおかずをひと皿増やし	1日の野菜の摂取目安量を知っている人の割合が増える	1日の野菜摂取量「350g」を知っている人は2割弱にとどまり、前回より減少している。	・1日の野菜摂取量を正しく理解してもらおう周知活動が必要。 ・コンビニや外食店の利便性や、地場産物の利用を活用しながらの野菜摂取量増加を目指す。 ・野菜料理レシピの提供等を行う。
	1日に摂取する野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合が増える	1日に1～2皿の野菜料理を食べる人は7割近くを占める。3皿以上食べる人は減少し、野菜摂取量は減少していることが考えられる。	
わが家(町)の食を伝えよう	農業体験学習に取り組む学校が増える	平成27年度調査と変化はないが、学校の敷地内や隣接した田んぼでの体験学習が行われている。	今後も継続して体験学習を行い、取り組む学校数が増加もしくは維持することを旨とする。
	学校給食における地場産品(果物・野菜等)の利用品目数の割合が増える	果物・野菜等の地場産物は天候に左右されるものの、利用品目数は目標値を上回っている。	今後も継続して果物・野菜等の地場産物を利用するために、生産者や関係者と連携し、品目数の拡大を目指す。
	地場産品を利用する人の割合が増える	目標値に達しないがほぼ横ばいの傾向。5歳児保護者以外は9割が利用している。	地域の産物の販売場所の情報提供などを行う。
	行事食を食べる人の割合を維持する	全ての年代で減少。特に5歳児保護者の減少率が大きい。	食文化を守り次世代に継承していくため、伝統的な行事食の普及について、関係機関・団体と連携した取り組みが必要。
	食のボランティアと連携する学校数を維持する	町内3小学校全てで食育関係に活躍しているボランティアと連携した活動が展開されている。	今後も継続して小学校とボランティアが連携し、食育活動を展開する。
らくらくみんなで食育推進	食育という言葉を知っている人の割合が増える	「言葉は知っているが意味は知らない・言葉も意味もわからない」と回答している人は成人全体で30%を超える状況。	食育に関心のない人にも情報が届くよう、地域、子どもを通じた関係機関との連携をすすめるとともに、広報紙やホームページ等で情報発信の方法を工夫する。
	食育推進ネットワーク会議を開催する	食育推進計画の進捗状況の確認とともに、各部署で実施している食育事業等について情報共有できている。	今後も継続して食育推進ネットワーク会議を開催し、関係機関と連携した食育推進に努める。

は令和3年度重点目標、

は令和5年度重点目標